ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	Br-2	調査位置				北　緯	36 ° 53 ' 40.0000 "
発注機関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2009-10-21 ～ 2009-10-23	東　経	140 ° 02 ' 23.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	226.51 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	13.44 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	226.21	0.30	0.30		シルト (M)	暗褐			現耕作土，腐植物・植物根混入		
	225.71	0.50	0.80		ローム (Lm)	褐			粘性大きい，軽石・炭化物混入		
1	224.81	0.90	1.70		砂質粘土 (CHS)	灰褐		中位	GL-1.20m付近まで砂分多く混入 軽石・炭化物混入		10/21 1.70
2	222.91	1.90	3.60		砂礫 (GS)	淡褐	密な		φ2～50mm程度の円～亜円礫主体 礫間は多量の粗砂と少量の粘土にて充填 GL-2.7m以深，掘削水の逸水，孔壁の崩壊がみられる		
4	220.01	2.90	6.50		粘土混り砂礫 (GS-C)	褐	非常に密な		φ2～75mm程度の円～亜角礫主体 礫間は粗砂と粘土にて充填 所々，掘削水の逸水，孔壁の崩壊がみられる GL-4.6～5.0mの間，砂分が優勢となる		10/23 4.60
7	213.07	6.94	13.44		粘土混り砂礫 (GS-C)	褐	中ぐらい		φ2～75mm程度の円～亜角礫主体 礫間は粗砂と粘土にて充填 所々，掘削水の逸水，孔壁の崩壊がみられる GL-6.7m付近まで，掘削水の完全逸水 GL-7.3～7.8mの間，粗砂を多く混入 GL-9.0m以深，φ2～50mm程度の円～亜円礫主体で粘土分を多く混入 GL-11.0m以深，クサリ礫(風化礫)を多く混入		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45					
2.15	27	23		50／20	>50
2.35					
3.15	6	11	21	38／30	38
3.45					
4.15	20	25	5／1	50／21	>50
4.36					
5.15	27	23／7		50／17	>50
5.32					
6.15	17	18	15	50／30	50
6.45					
7.15	12	9	4	25／30	25
7.45					
8.15	23	21	6／2	50／22	>50
8.37					
9.15	12	10	12	34／30	34
9.45					
10.15	13	18	19	50／30	50
10.45					
11.15	11	10	12	33／30	33
11.45					
12.15	20	18	12／8	50／28	>50
12.43					
13.15	16	18	16／9	50／29	>50
13.44					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
7.15～7.45	2-1	㊀	物理	
				10/21
				10/22
				10/23